

視力検査 の結果に ついて

幼児期は視力の発達を左右する大切な時期です。
今回の視力検査結果が 0.9 以下（B、C、D）の場合
は、お早めに眼科を受診することをお勧めします。

はじめに

生まれたての赤ちゃんの視力は、目の前の動くものが分かる程度。視力は幼児期に発達します。



赤ちゃんの視力は、毎日ものを見続けることにより発達し、

1歳で約 0.1～ 0.2

2歳で約 0.2～ 0.4

3歳で約 0.5～ 1.0

程度の視力になります。

ただ3歳児の見え方はまだ不安定で、大人と同じように安定して見えるようになるのは就学を迎える頃といわれています。

「弱視」

何らかの理由で視力の発達が妨げられ、近視等のメガネをかけても十分な視力が得られない状態。

就学時健康診断では、左右どちらかの目の視力が弱い「片眼弱視」が見つかることがあります。片方の目が良く見えているので、周囲の大人も気づきにくいです。遠視や乱視が原因のことが多く、専用のメガネを掛けさせうえて、視力の良い方の目を隠し、悪いほうの目だけを見る訓練などを行います。この治療は、遅くても6歳～7歳頃までに始めることが望ましく、小学校入学後の健康診断で見つかったても、十分な視力が得られないことがあります。

「近視」

机周りなど近くは良く見えるけれど、遠くがぼやけてよく見えない状態。

教室の黒板の字が読めなければ凹レンズのメガネが必要になります。近視は眼球の形が原因で起こる「屈折異常」ですので、治すことができません。



「遠視」

遠くは見えるけれど近くがぼやけてよく見えない状態。

軽度の遠視では問題はありませんが、強度の遠視では近くも遠くもぼやけて 見えるため「弱視」になります。無理にピントを合わせようと調節すると、両目が内によってしまう「内斜視」の状態になります。このような場合は凸レンズのメガネを掛け、ピントを合わせてやることで視力の発達を促し、斜視を治療します。

「斜視」

両目の視線が合わず、物を立体的にみることができない状態。

昼間は目立たず、夕方疲れてきたり、眠くなったりした時だけ、左右の視線がずれる軽い斜視もあります。両目で立体的に見る機能の発達に影響があるときは眼鏡や手術などの治療が必要です。



歯科健診に関するお知らせ

今回の歯科健診でむし歯が見つかった、また歯の色など、お子さんのお口の中で気になっているところはありませんか？気になることがある場合は、歯医者を受診されることをお勧めいたします。



子ども医療費助成制度のお知らせ

札幌市子ども医療費助成制度が改正となり、子ども医療費受給証の交付を受けているお子さんの通院医療費助成の対象範囲が、令和3年4月1日診療分から0歳～小学校6年生までとなりました。

歯医者にかかる医療費は初診料の510円のみで、2回目以降の保険診療の自己負担分を札幌市が助成してくれます。

0才～小学校6年生まで
入院・通院費の 自己負担分を札幌市が助成 初診料510円のみ自己負担

よって、歯医者にかかる医療費は初診の510円以上かからないため、助成対象年齢のうちにむし歯の治療やレントゲンなどの検査をしておくとご家庭における医療費を小さく抑えることができます。

歯科健診後の歯医者受診について

法律により、健診日より1カ月以内(12月8日まで)に歯医者を受診した場合、健診を行った歯科医療機関を受診する場合に限り、初診ではなく再診での取り扱いとなり、自己負担金を軽減することができます。更に、子ども医療費受給者証をお持ちの方は再診料等の費用はかかりません。

	1ヶ月以内の受診	1か月経過後の受診
健診を行った歯科医療機関の受診 ※今回はちだ歯科クリニックとなります	再診	初診
上記に加え、子ども医療費受給者証をお持ちの方	再診料・治療費不要	初診料のみ



※当院受診の際は、歯科健診結果シートをお持ちください。



学校指定歯科医 医療法人社団千仁会 ちだ歯科クリニックキッズデンタル

札幌市北区屯田5条10丁目8-1 / TEL : 011-774-6551

	月	火	水	木	金	土	日	祝
9:30～13:00	○	○	○	○	○	○	-	-
14:00～19:00	○	○	○	○	○	○	-	-

託児サービスがあります

保護者の方が受診している間、保育士の資格を持ったスタッフがお子さんを大切にお預かりいたします。

お預かり対象年齢：未就学児 / 要予約

<http://www.senjinkai.or.jp/>

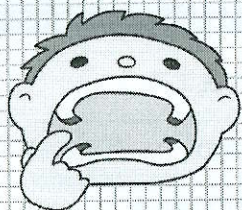


医療法人社団千仁会



小学校入学時期のお口の変化

6才臼歯



小学1年生になると、一番奥の乳歯の後ろから6歳臼歯と呼ばれる永久歯が生えてきます。一生使う歯で、食べ物をすり潰したり、噛み合わせをつくったり、重要な働きを持っています。

生えてから1~2年の歯は未熟であるため、むし歯になりやすく、むし歯の進行が早いという特徴があります。むし歯が神経まで到達してしまうと、神経をとらなければなりません。そうすると銀歯になり、また歯の寿命が短くなってしまいます。一生使う大事な歯がそのようなことになってしまうと大変です。

残念なことに小学生で永久歯の神経を取らなければならないケースは珍しくありません。

今までむし歯になったことがなかったお子さんも、甘いお菓子やジュースの味を覚え繰り返し口にするようになったり、また習い事の休憩時間に甘いお菓子やイオン飲料（スポーツドリンク）を飲む機会が増えたりといった食習慣や生活環境が変わることでお口の中の環境が変化し、むし歯になる可能性が高まる場合があります。

「今までむし歯になったことがなかったのにむし歯が見つかった」

「むし歯になってからお菓子やジュースに関して十分気をつけていたのに、またむし歯になってしまった」と後悔して欲しくありません。

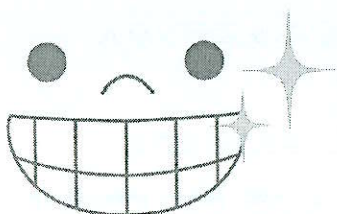


生活環境の変化とお口の変化



小学生になっても健診を続けましょう

札幌市子ども医療費助成制度が改正となり、子ども医療費受給証の交付を受けているお子さんの通院医療費助成の対象範囲が、令和3年4月1日診療分から0歳~小学校6年生までとなりました。



小学生になってもむし歯にならないように定期健診をお勧めします。歯科医院で歯磨きの大切さを伝え、定期的にむし歯がないかチェックし、歯をキレイにしていきます。ちだ歯科に通院している子どもたちの大事な大人の歯をむし歯から守るために、私たちは全力でサポートしていきます。